

對那些**高傲**的從者們

用**令咒**使其**強制發情**的情況

F.W.ZHolic

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止



《モードレッドの場合》

「てめえ次にオレを女扱いしたらぶっ殺すぞ！  
ゴミクズの無能マスターのくせに偉そうにしゃがってよお！むかつくんだよ！」

モードレッドがあまりにも生意気だったので令呪で発情させてみた

「……よくもやってくれたな……どうしようもないクズが！  
……は？女らしくしてエロいって？クソあとでせってー殺す……」

「別になんともねーよ、アホか。ただ……その……あれだ！暑いんだよ！感じるとかじゃなくて……」  
「……こいつを見たら殺す……」  
「……なんだその顔？まさかやれるかもって考えてんのか？……はっ、頭がお花畑すぎて可哀想だぜ……」





「……は？今更犯りたくないってどういふことだ！？」



「こんな生意気な女としたりたくないっ  
て？  
オレは男だって言ったたる…ま、ま  
あ謝ればいいんだろ？さっきはわる  
か…何？土下座だと？お前いい加  
減に…ま、待って！やらないなんて  
三言も言っていないだろが！」

じゃあこちらの言ったこ  
とを繰り返してみて

「も、モードレッドは…  
は、はつ…冗談じゃね  
え…クソ…発情した…め  
、メス犬です…」

ま…マスターにお、おち  
んちゃんを入れてもらいた  
いの生意気な態度を取  
つてすみませんでした…

下賤なメス…うう…下賤  
な…メス犬の分際で…マ  
スターにたいへん不遜な  
ことを言ってしまった申し  
訳ございません、どうか  
お許しください…

だから…そのおちんぼで  
…オレの恥知らずのま、  
まんこを思いつきりお仕  
置きしてください！

…お願いします！その  
遅い肉棒でオレのまん  
こを掻き混ぜて種付けし  
てください！！

（ああ…そんなこと指示  
されていないのに自分から  
言ってしまった…）」



アドリップまでやったし、  
誠意ある謝罪として認め  
ようじゃないか。自分  
でもやっぱいいや。自分  
でオナニーでもしてなさ  
い。

「くっ…こいつ…バ  
カにしやがって…  
待ってるよ、痛い目にあ  
わせてやるからな…」  
「…くうん…ま、また  
…イク…」

怒るのが発情するのとかど  
ちらかにしたらどうだ  
しかしこの勢いだと、令  
呪の効果が消えるまでオ  
ナニーし続けそうだ

# 《ステノ&エウリュアレの場合》

「あらあら、こんなところに虫がいるわ、私（ステノ）。カルデアの衛生管理はまだまだ改善する余地はありそうね！ いっそ踏んでしまおうかしら？」

「ふふ、本当ね。…でも踏み潰したところで足が汚れるだけよ、私（エウリュアレ）。…まあ、虫の分際で不満そうな顔をして。虫なのに生意気ね、うふふ…」



「ええ…そうよ！ 童貞のくせに。無造作に捻り潰したいところね、私（ステノ）」

「くっ…令呪をこんなことに使うなんて、救いようのない童貞ですこと。そうでしょ、私（エウリュアレ）」

「ええ…そうよ！ 童貞のくせに。無造作に捻り潰したいところね、私（ステノ）」

「虫から童貞へ。レベルアップと違っていいのだろうか？ それとも彼女たちにとって童貞は虫けら以下の存在にあたるか？」



《ジャンヌオルタの場合》

「ちよつと！どご見ているのよ。万年発情期の猿のくせに、私のマスタ―を名乗るなんて千年早いわよ！そこ邪魔。焼き殺されたくなければ部屋の隅っこまでどきなさい！」

オルタが横暴すぎたので、令呪で発情させてみた

「くっ…女をこんな姿にさせて楽しいの？まあいい、今のうちにせいぜい楽しい方がいいわ…これから燃えカスにされてしまうもの」

「!? そ、そんなわけないじゃない。ただ…ちよつとだけ…も、もういいでしょ。こんな姿にさせてやることは決まってるでしょ？ ささつと終わらせて、そしたらあなたを殺してあがるから」

「と言っても、もう下はぐちよ濡れなんだね。オルタって見られて興奮するタイプ？」



「ふじ……ふん……ぐっ……」

オルタがまったく反省する素振りを  
見せないで縛って見た。  
彼女がゴクッと飲み込む度にはつき  
りとのど輪の収縮が伝わり、まるで  
本当に性器に挿入しているように感  
じた。

「ちょ、ちよつと——発出  
しただけなのにどこへ行く  
のよー？」

だから犯りたいわけじゃな  
いって。発情して頭ん中セ  
ックスしかないって、猿み  
たいだな。

「なんですって……この……」

「!? 待って、行かないでよ！ くっ、解けない……これも  
令呪の効果なの？」  
それじゃあ何もできないじゃない。それにこれの出力設  
定が弱くて、くすぐらるみたいでもどかしいのよ……ね  
え！ 戻りなさいってば!!」

「……!」  
「あんなね……ちゃんと口  
の中に出すこともできず  
にそこら辺にぶっかける  
なんて……猿以下なんじゃ  
ないの？」



「てめえ!!!よくもバカにして  
くれたな!!!  
痛い目にあわせてやると言った  
よなあ!  
この…クズ(グリッ)  
クズ(グリッ)!!  
クズが(グリッ)!!!」

《令呪の効果が続いた場合》

「はあ…はあ…踏まれて恥  
ずかじげもなく射撃したと  
は…やはり…どうしようも  
ないほど…クズなんだなお  
前は!」



「ねえ、私（ステノ）。女神を愚弄するこのお馬鹿さんには、どうお仕置きしようかしらね？」  
「うふふ…こんな恥ずかしい状況なのに勃起しちゃうなんて、どうやら反省する気はないようね…どう？ここ探まれて気持ちいいのかしら？この童貞クソムシが…ふーん。やはり去勢でしか貴方の罪は償えないかしらね。このままちんこもいじやおうか？どう思う、私（エウリュア）？」  
「アハハハッ！今ピクンってした！」

「どうしちゃったの？怖いのお？でも残念、今更もう遅いわ！…でもまあこのままじゃ可哀想か。間を取ってタマだけ潰しちゃおうかしら、私（ステノ）？」  
「あはっ、それいい！そうしましょう、私（エウリュア）！治療ができるサーヴァントはいっぱい居るわけだし、一回や二回潰しても問題にならないよね！」  
「残念だったね、童貞さん。脱童より先に去勢を体験させられちゃうなんて！」

「残念だったね、童貞さん。脱童より先に去勢を体験させられちゃうなんて！」  
「それでは私（ステノ）。三つ数えて潰しましょう！」  
「ええ。それではういーち…三！アハハハ、嘘よ。そんなに震えちゃって、かわいそう。タマ潰しながら、するわけないじゃない（ー）」  
「か！わ！い！い！ほ！っ！と！じ！ち！ゃ！っ！た！？（三……）」  
「で！は！仲！直！り！の！証！に！」

「アハハハハ！すごい！潰された瞬間に達じちゃうなんてアハハハハ！」  
「おもしろい！電流を流されたカエルみたいに痙攣しちゃって！」  
「あら…まだゴリゴリした物が残っているわね。ごねごねい」  
「ねえねえ、これ超面白いの。クセになっちゃうわ、私（ステノ）」  
「そうね、私（エウリュア）。さっそく治療できるサーヴァントを探してきましょう。そしたら何回でも遊べるわ。うふふ…」  
「いいわ！それじゃあ、私たちが飽きるまで頑張ってよね、童貞くん」

「どうした？さっきまで偉そうにしてた  
じゃない？今の姿じゃ、私の思うままに  
動かされる肉人形みたい」

「おもちゃを返してあげるわ！後ろの穴  
まで詰め込まれる感覚はさぞいいでしょ  
うね！あんたと違って私は優しいから、  
全部MAXにしておいたわ。感謝しなさい  
な！」

「ふお……これ……最高……」

「これで終わりと思いましたが？ここから  
が本番よ……今は焼かないおくから、ここ  
からはノンストップ射精地獄。私を満足  
させてみなさい。その時まで耐えられる  
か怪しいけど……」





## 【後記】

あとがき

皆さんこんばんは。お買い上げありがとうございます。

二度目の絵本(?)方式をチャレンジしてみました。内容の昔と違って本番一直線じゃなくなり、正直ちょっと不安です。

個人的に、特にラスト3ページはドM向けの内容になってると思います。実を言いますとM向けの作品はあまり知らなくて、こういう話が好きな読者は満足していただけるかどうか…同時に、通常のHやS向けの話が好きな読者はこの本を受け入れてくれるかどうか…とても心配です。でもアイデアが湧いてきたし、こういった試みもしてみたかったし、何とかして完成させました。

モーさんは特に好きなキャラですので、ちょっと補足を。モーさんパートは性自認性の話にも関わりますが、展開の都合上あなるべくしてあなただけで、自分は女性差別をするつもりはありません。どうかそのまま話としてお楽しみくださいm(\_ \_)m

それと…本当にやる人はいないと思いますが、タマ潰しはフィクションです。絶対にやらないでくださいね。

(10ページしかないのにあとがきに注意事項まで書いてしまいました…しかも二つも…実はやばい内容だったりして)

モーさん以外、枚数が少ないながらもぬちゃんとゴルゴン姉妹も書けまして満足です。ラクガキ本のつもりが、気がづくとき書き込みがすごいことに(それでPF27に間に合わなかったです)。早く描けるようになりたいものです。

それでは、また次回お会いしましょう。



→ あとがきのレイアウトをメチャクチャにしたぬちゃん。体に落書きする話を書く予定でしたが、やはりどこか違和感を感じたので没になりました。